

東京都・埼玉県

立教大学 ～立教の伝統あるプログラム「農業体験 in 山形県高畠町」～

● 学びを支援する高畠町 – 伝統のはじまり –

- ・「農業体験 in 山形県高畠町」は、1989年に始まった「環境・生命・食」について考えるフィールドワーク。
- ・1986年のチェルノブイリ原発事故を契機に、体験的に学べる場を探していた大学に、有機農業を先駆けて実践していた高畠町が応じたことが原点。

● 学びの道のり – 事前学習から4泊5日の現地体験へ –

- ・【事前学習】チームビルディング、国内外の有機農業等の学習。2日間の学習後も各チームで継続調査。
- ・【援農活動】地元農家で、稲の管理、ぶどうの手入れなどを通じて、農業の厳しさや喜びを体感。
- ・【共同生活】宿泊施設で寝食を共にし、朝晩の食事作りを通じて食と農の繋がりや高畠町の暮らしを探究。
- ・【成果発表】地域の方々と成果発表・質疑応答で学びを深め、交流会は学生の手作り料理で感謝の意を伝達。

<見逃せないポイント – サークル活動との違い – >

大学の理念に沿った学び重視の教育プログラム。地域のご協力の下、信頼と継続性も確保。

有機農業から見える社会は？
事前学習の学びで広がる視野



「ヒエ」を手作業で取り除く
有機栽培ならではの手間を体感



● 大学に届く高畠町の食材－共に生きる都市と農村－

- ・池袋キャンパス第一食堂・新座キャンパスForestでは、学生を受け入れている生産組合の特別栽培米を提供。
- ・卒業生が集う10月のホームカミングデーでは、本プログラム参加学生有志が、高畠町の産品を販売・紹介。
- ・これらは、農業体験の成果を『食』として大学に還元し、食育にもつながる、持続可能な連携の仕組み。

● 継続が育む絆－高畠町で広がる立教大生の地域貢献－

- ・学生は「農業・食・地域の視野が広がった」、地域は「生産者の思いが学生を介して消費者へ届いた」の声。
- ・本プログラム終了後や卒業後も高畠町に魅力を感じ、生産者と自主的に交流や援農を続ける者が多数。
- ・高畠町に移住し、地域と関わりながら座談会などを通じて本プログラムの充実に貢献する卒業生も存在。
- ・2026年度新設の環境学部は、サステナブルな地域づくりを目指しており、本プログラムとの相乗効果も期待。

● 立教大学ボランティアセンター note

学生が自ら考え、未来を切り拓いていけるよう、地域のご協力の下、教職員が情熱と信念で創り上げたプログラムです！



★ 概要 ★

プログラム開始：1989年

メンバー：年間15名（応募者から選抜）

活動分野：援農、共同活動、地域交流

問合せ先：volunteer@rikkyo.ac.jp

高畠町の恵みと思い、立教へ地域とつながる学食メニュー



人生の転機は、あの農業体験！
高畠町で先輩たちとの交流会

